

3-2 基礎学力の充実

国は「世界トップレベルの学力の復活」のため、学習指導要領全体の見直しに向けた具体的な検討課題を示しました。これまでの「ゆとり」路線の方向性は踏襲されますが、基礎・基本重視のため、総合的な学習の時間や土曜日、長期休業日の活用などで授業時間数を見直すこととしています。

そうした中、いなべ市では従来から子どもたち一人ひとりの発達状況や学習状況を的確に把握し、基礎・基本の定着、みんなで学び合える授業づくりに取り組んできました。今後も、授業の中で支援の必要な子どもに教員が付いて対応するティームティーチング、少人数教育、外国人教師による英語の授業、国際理解教育やパソコンを活用した情報教育など、指導方法や指導内容を工夫しながら、学ぶ楽しさ、わかる喜び、できた達成感を味わえる授業づくりをめざします。

また、障害を持つ子どもたちに対してもきめ細かく対応できるように介助員を増員し、児童数の減少による複式学級へ講師を増員するなど、誰もが安心して授業を受けることができる環境づくりに努めます。

3-3 教育児童施設の整備

核家族の増加にともない、児童と高齢者などとの触れ合いが重視されています。学校や保育園などの建設にあたっては、地域の公民館や障害者、高齢者、子育て支援などの施設と併設させ、自然と交流する機会が増え、支え合える環境が生まれるよう工夫したいと思います。また、危機管理の側面からも複合施設にすることにより、多くの大人が常駐できる体制をつくり、不測の事態に即応できる施設をめざします。

平成17年度は藤原中学校の体育館と武道館、石榑小学校の体育館とプールの建設を継続事業として取り組みます。長年の懸案事項である山郷幼稚園は山郷保育園の北側に用地を確保すべく努力しており、まとも次第、設計協議をはじめ、平成18年度には幼稚園と保育園を一体化した施設の建設ができるよう努めます。員弁西小学校は旧員弁高校の跡地も候補の一つに挙がっていましたが、校区の外れであり、東に寄り過ぎるとのご意見が多く、地域の建設委員のみなさんで用地も含めて検討していただいています。しかし、新たな用地の確保が困難な場合、現在

の校庭の活用も視野に入れて進めます。平成17年度で設計予算を計上し、平成18年度で建設できるように努力します。

また、丹生川保育園と大安中央保育園の建て替え用地は既に員弁土地開発公社で確保されていますが、国の補助の削減や財政状態の悪化にともない延期を余儀なくされています。丹生川保育園は将来、丹生川上児童館と機能を統合した建て替えを考えており、また、急増している3歳未満児の受け入れ対策として、大安中央保育園は石榑東自治会からの借地の部分に乳児用の分園を新設しましたが、保育園本体の建設にはもう少し時間を要します。

現在、北勢町のみ5歳児は幼稚園、4歳児以下は保育園と区別されていますので、幼稚園と保育園を統合した幼児教育センターとしての運営を施設ごとに検討します。



幼児教育センター

3-4 スポーツ振興

国は国民の健康増進と競技スポーツのレベルアップを目的にスポーツ人口の拡大を大きな目標に掲げています。幸い、いなべ市のスポーツに関わる団体は合併後いち早く組織を統合し、一丸となってスポーツ振興に取り組んでいます。特に、体育協会は種目別の専門部を中心にスペシャリストの育成に力を入れ、スポーツ少年団は45団体、会員数が約900人と全児童の約3割に及び、裾野の拡大に貢献しています。さらに、体育指導委員はキンボールなどのニュースポーツの普及に尽力いただいています。

また、運動やスポーツの普及には安心して散歩やジョギングができるコースや、身近にスポーツに親しめる運動施設の整備が望まれます。老朽化した施設の修繕や統合による建て替えを検討するとともに、